

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科作業療法学専攻

平成 26 年度修士学位論文

学生番号	M971301
氏 名	市田 博子
学 位	修士（作業療法学）
指導教員	藪脇 健司
副指導教員	岩田 美幸・狩長 弘親
論文題目	地域生活を送る慢性呼吸器疾患患者の作業参加が健康関連 QOL に与える影響
要 旨 (200 字以内)	作業を通して健康と幸福な生活を促進することは重要であるが、呼吸器疾患患者の作業と QOL についての研究はみられない。改変 ACTRE を使用した本研究より、呼吸器疾患患者は身体的疲労が強く自ら活動を制限し、価値の高い作業参加が少ない傾向であるが、個人にとって価値を感じる作業参加が健康関連 QOL 全体を向上できることがわかった。また作業参加は 2 因子構造であり、効率性が高い評価開発が行える可能性が示唆された。

学生番号	M971302
氏 名	井村 亘
学 位	修士（作業療法学）
指導教員	狩長 弘親
副指導教員	平尾 一樹・松田 勇
論文題目	ポータブルトイレの様式が座位での下衣の下げ動作の所要時間と動作負担感に及ぼす影響
要 旨 (200 字以内)	目的は、座位での下衣の下げ動作の所要時間短縮及び、動作負担感軽減に貢献できるポータブルトイレ様式ならびに、所要時間を規定する骨盤・胸郭の運動を明らかにすることである。高位かつ前傾位に調節したポータブルトイレは、所要時間短縮及び動作負担感軽減に貢献できることが示された。また、骨盤前傾及び胸郭前後傾の運動を促し、胸郭前後傾以外の運動を抑制する訓練が、所要時間短縮のためには有効である可能性が示唆された。

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科作業療法学専攻

平成 26 年度修士学位論文

学生番号	M971303
氏 名	大森 大輔
学 位	修士（作業療法学）
指導教員	狩長 弘親
副指導教員	山本 倫子・加納 良男
論文題目	通所リハビリテーション利用者の作業療法における生活行為申し送り表の効果－ランダム化比較試験による検討
要 旨 (200 字以内)	作業療法士が生活行為申し送り表を使用し、介護支援専門員へ情報提供することが通所リハ利用者の QOL・ADL・IADL へ及ぼす効果を RCT にて検討した。介入群は対照群に比べ EQVAS, B.I が有意に高い値を示した。また、3 か月後では生活目標の満足度、6 か月後では生活目標の実行度・満足度が有意に高い値を示した。生活行為申し送り表による情報提供が通所リハ利用者の生活行為向上に貢献できることが示唆された。

学生番号	M971304
氏 名	上村 有希子
学 位	修士（作業療法学）
指導教員	香田 康年
副指導教員	松田 勇・中角 祐治
論文題目	異文化クライアントに作業療法を提供した際の文化の影響－在日外国人に対する作業療法の実態調査と青年海外協力隊作業療法士隊員を対象としたインタビューによる質的研究を通して
要 旨 (200 字以内)	近年、わが国でも外国人の存在は身近になり、保健医療分野による在日外国人への支援は高まっている。そこで本研究では、在日外国人に対する作業療法の実態調査、青年海外協力隊の経験談を基に、異文化のクライアントに作業療法を提供した際の文化的要因とその関係性を分析、そして、これらの結果が、在日外国人に対する作業療法にどのように活用できるのか、さらに異文化クライアントに対する作業療法の今後の展望を考察した。

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科作業療法学専攻
平成 26 年度修士学位論文

学生番号	M971305
氏 名	古桧山 建吾
学 位	修士（作業療法学）
指導教員	京極 真
副指導教員	狩長 弘親・山本 倫子
論文題目	理論に根ざした実践によって引き起こされる信念対立の実態構造とその問題解明に向けて
要 旨 (200 字以内)	本研究の目的は、理論に根ざした実践による信念対立の実態構造と特性を明らかにすることである。半構造化面接を行った後に、KJ 法でデータを分析し、複線径路等至性モデルによるモデル図の可視化、事例ーコード・マトリックスを用いた各事例の特性を明らかにした。結果、信念対立はクライアントへの共通目標を持つ／持たないということに至ること、理論を使い分けられることが、しなやかな実践の実現に繋がることを示唆した。

学生番号	M971308
氏 名	竹中 孝博
学 位	修士（作業療法学）
指導教員	中角 祐治
副指導教員	平尾 一樹・香田 康年
論文題目	脊髄神経機能の面からみた効率的な運動イメージ方法の検討とミラーセラピーの効果の検討
要 旨 (200 字以内)	脊髄の興奮から効率的な運動イメージ方法を検討した結果、物を把持して等尺性収縮を行うことが有効である可能性があり、イメージ能力が低下した患者ほどミラーセラピーによる視覚的錯覚の効果がある可能性が示唆され、脳血流の面からは課題のスピードを自分自身のやりやすいペースより速いか、遅いペースで行うことが有効である事が分かった。激しい身体活動を伴わない運動イメージ訓練は低リスクで効果的である根拠となった。

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科作業療法学専攻

平成 26 年度修士学位論文

学生番号	M971309
氏 名	多田 哲也
学 位	修士（作業療法学）
指導教員	京極 真
副指導教員	山本 倫子・平尾 一樹
論文題目	ハンドセラピィを受ける患者が体験する信念対立と対処法の特徴
要 旨 (200 字以内)	ハンドセラピィを受ける患者が体験する信念対立と対処法の特徴を明らかにするために、15 名の患者に対し半構造化面接を実施し、構造構成的質的研究法、事例－コードマトリックスを用いて分析した。結果、信念対立の構造は原因、対処、結果から成り、対処は己への働きかけ、他への働きかけの順に行われた。また、患者は複数の信念対立を経験する可能性があった。本研究は、患者・治療者関係の構築に利用される可能性が示唆された。

学生番号	M971310
氏 名	眞々部 仁美
学 位	修士（作業療法学）
指導教員	中角 祐治
副指導教員	平尾 一樹・香田 康年
論文題目	地域在住高齢者における転倒予防を目的とした立ち上がり動作指導の検討
要 旨 (200 字以内)	高齢者は非利き手使用時「ゆっくり」の速さが大変な動作条件であり、3次元動作解析装置を用いその要因を探った。利き手と利き足が同側である「同側群」では、準備期と離臀期において、頭 Y 軸および Z 軸・肩 Y 軸・上前 Y 軸の変位が特に大きかった。つまり、左右非対称性を強めた不安定な姿勢であることが分かった。そこで、「同側群」の高齢者には利き手使用時の立ち上がり動作を勧めることが転倒予防に貢献できると示唆された。

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科作業療法学専攻

平成 26 年度修士学位論文

学生番号	M971311
氏 名	南 庄一郎
学 位	修士（作業療法学）
指導教員	藪脇 健司
副指導教員	岩田 美幸・平尾 一樹
論文題目	不安の高い統合失調症男性患者の自炊生活実現が阻害される心理的プロセス
要 旨 (200 字以内)	本研究では、不安の高い統合失調症男性患者の自炊生活実現が阻害される心理的プロセスについて、M-GTA を用いて明らかにした。この結果、統合失調症患者の疾患特異的な現実認識の乏しさや、調理に対して抱く、特異的な自己効力感の関与がその要因と考えられた。また、本研究から得られた知見を活かし、対象者の自炊生活実現に向けた介入案を作成することで、将来的な自炊生活の実現に効果的な関わりが行える可能性が示唆された。

学生番号	M971312
氏 名	山森 真理子
学 位	修士（作業療法学）
指導教員	京極 真
副指導教員	岩田 美幸・平尾 一樹
論文題目	職場のトラブルメーカーに対処する医療従事者の信念対立の現状と対処法
要 旨 (200 字以内)	本研究は、トラブルメーカーへ対処する医療従事者が体験する信念対立の実態構造とその過程を明らかにすることを目的とした。半構造化インタビュー後、構造構成的質的研究法による概念、カテゴリー、モデル図の作成、事例-コード・マトリックスによる各事例の特性、複線径路等至性モデルによるプロセスの可視化の分析を実施した。結果、信念対立の帰結は3種類あり、いずれにしても思考停止を経由し収束することが示唆された。

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科作業療法学専攻

平成 26 年度修士学位論文

学生番号	M971313
氏名	吉田 一平
学位	修士（作業療法学）
指導教員	藪脇 健司
副指導教員	岩田 美幸・平尾 一樹
論文題目	高齢者の挑戦水準・能力水準バランスを調整した作業療法が QOL に与える効果－フローモデルを基にした研究
要旨 (200 字以内)	本論文は、フローモデルを基に、課題に対する「挑戦水準」と「能力水準」のバランスを調整した老年期作業療法が QOL に与える効果について、ランダム化比較試験にて検証したものである。介入の結果、EQ5D-5L, SF-8, 作業課題版 Flow 尺度にて有意な改善を認めた。「挑戦水準」と「能力水準」のバランスを調整するプロセスは、健康関連 QOL や作業に対する主観的評価を高める作業療法の実践方法として有用である。